

令和7年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立吉田中学校

1 自己評価書

教育目標	心たくましく、地域と共に歩む生徒の育成 ～地域と共に「我が町 吉田」の明るい未来を目指して～						
基本方針	生徒、保護者、地域住民、教職員が一体となり、愛され、信頼される学校づくりを目指す。						
本年度 重点目標	1 新しい時代に求められる資質・能力を身に付けた生徒の育成を目指す。 2 家庭・地域との連携の深化による、愛され、信頼される学校づくりを目指す。 3 知・徳・体のバランスのとれた「たくましく生きる力」を育む学校づくりを目指す。 4 全教職員の高い志と実践的指導力に基づいた、教育愛にあふれた学校づくりを目指す。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査 及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	B B	B	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A	
			ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A B	A	
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A C A	A	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B	C	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C D C	C	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A B	A	
	(成果と課題) ○ 大型液晶テレビが教室に設置され、授業等で活用した。子供達の集中力を持続させる上で大変効果的であった。 ● 宿題の内容や見取りについて、学力と学習意欲の向上につながっているかの視点で見直す必要がある。 ● 毎朝10分間の読書を継続しているが、評価は低い。 ○ 産業祭、秋祭り、その他の地域行事やボランティア活動などへ進んで参加する生徒が増えた。						
	(改善策等) ◇ 家庭学習の充実に向けて、宿題の内容や見取りの方法を学年部会と教科部会で見直す。 ◇ 朝読書の時間に教職員も一緒に読書したり、お勤めの本の紹介をしったりして、読書の意欲を高めたい。						
	評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
	生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
		②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
				不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
				いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A C A	A
		③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A
④		自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にを行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A B	B	
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A C		
(成果と課題) ○ 学級担任が一人で対応するのではなく、学年部、生徒指導主事、管理職で共有し、複数で対応することができた。 ○ サポートルームでの支援が充実し、不登校傾向の生徒が安心して学習や活動に取り組んでいる。 ● SNSによるトラブルが数件あり、対応に苦慮した。管理責任が果たせていない保護者もいる。 ○ 自己肯定感等の高い生徒の割合が増えた。(自己肯定感:74.5%→80.9%、自己有用感:69.5%→72.0%)							
(改善策等) ◇ SNSの使い方について、ありとあらゆる方法で生徒及び保護者に対して積極的に啓発していく。 ◇ トラブルが起こった際の対応(事実確認、保護者への説明など)について、教職員個々のレベルアップに努めたい。 ◇ いじめや不登校、特別支援教育に関する校内研修を積み重ね、教職員自身の考え方をアップデートする。							

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート	C	C
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
(成果と課題)						
● 超過勤務時間が月80時間を超える教職員の割合は高い。ただし、数年前に比べると減少傾向にある。						
○ 学校行事や校時の工夫により、時間的なゆとりを生むことができた。(毎週水曜日、期末テスト、マラソン大会など)						
○ 各学年部や各校務分掌において、自分の得意分野を生かしたり、お互いにカバーし合ったりする姿勢が見られた。						
● 教職員と教育活動支援員との打合せや情報共有が不十分で、意思疎通が図れていないことがある。						
○ 部活動指導員の活用により、部活動顧問の負担は軽減されている。						
(改善策等)						
◇ 管理職、各主任など、より重い責任のある立場の者から率先して意識改革に努める。						
◇ 教職員と教育活動支援員との情報共有の時間を月行事予定に組み込む。(午前中授業の日などに設定)						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
(成果と課題)						
○ PTAリサイクル資源回収が充実した。また、保護者の協力により体育祭の準備や後片付けがスムーズにできた。						
○ 地域の事業所の協力により、3年生ジョブチャレンジ(職場体験学習)が大変有意義なものになった。						
○ マチコミによる情報発信が保護者に好評であった。(学校便り、生徒指導関係、進路関係、PTA会長メッセージなど)						
● 近隣の学校に比べ、ホームページの更新頻度が低い。(日々の活動の様子、修学旅行中の様子など)						
(改善策等)						
◇ ホームページの更新について、担当者の業務分担を明確にし、過度な負担がかからない範囲内で適切に発信していきたい。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満